みすゞ詩集

かるた

お炬燵の上に、
お蜜柑積んで、
お祖母様、眼鏡、
キラ、キラ、キラリよ。

疊のうへにや、
かるたが散って、
ちひちやいお頭、
ひい、ふう、みいつよ。

硝子のそとは、
しづかな暗夜、
ときどき霰が、
パラ、パラ、パラリよ。

「JULA出版局
みすゞ全集から」

わが家のスター

上田美奈ちゃん
（2歳1か月）
（板持4区）

友達をたくさんつくって、妹の有希ちゃんとも仲良く元気に遊んでくださいね。
（母　**万由美**さん）

チョット広話し

切手・ハガキの交換制度

額面が大きすぎたり、小さすぎたりして使いにくい切手、書き損じたハガキはありませんか。郵便局に持参すれば、わずかな手数料で交換してもらえます。

交換を希望される切手類	交換手数料（1枚に付き）
○郵便切手　○通常葉書 ○往復葉書の往信部または、返信部のみ ○小包葉書　○収入印紙	5円
○往復葉書　○郵便書簡 ○航空書簡	10円
○切手、葉書の料額印面に表された金額が10円に満たないもの	料額印面の金額（2枚以上のときは、その合計額）の半額

ただし、収入印紙は収入印紙とだけしか交換できません。年賀はがきと、年賀はがきの交換はその年の分のみ可能です。

年賀はがきを通常はがきに交換するのはいつのでもできます。

詳しくは長門郵便局☎②－2231へ。

記念入浴札をプレゼント

湯本温泉の市営公衆浴場は1月1日正午から営業を開始します。

今年も、新年の記念入浴札（絵馬）を先着100人にプレゼントします。

こんにちは

長門市郷土文化研究会を訪問

第1回

市内で活躍している各種のグループを訪ね、その活動を紹介するコーナーを設けました。第1回は、毎月、広報に『ながと歴史散歩』を投稿中の長門市郷土文化研究会を訪ねました。

この会の設立は、昭和33年で、初代会長は故田村元一さん、顧問には故山崎徳三郎翁が就任。以来30年間活動が続いています。

この間、会の目的である郷土史、文化財の調査研究を通じて郷土文化の向上を図るため、何度も著名な講師による郷土史の講演会を開催しています。また、児玉花外や金子みすゞの詩碑の建立も行っています。

訪れた日は月例会の日で、羽仁雅助会長を中心に30周年記念事業として発行を計画している、長門市の昔を写した写真集について話し合いが行われていました。

会員の年齢は高いが、例会での話は活発で熱が入っていました。すばらしい写真集の完成を祈って、例会の会場をあとにしました。

ながと歴史散歩

第19回

郷土出身の力士
十両・長門洋

大正時代、東京大角力（相撲）で活躍した郷土出身の力士がいる。

長門洋（ながとなだ）荒右衛門（本名・久保田一作）である。

一作は明治二十七年、久保田助蔵の長男として深川村井手口（板持一区）に生まれた。深川小学校を卒業後、一作はよく近くの宮相撲に出場、たびたび優勝のご幣（へい）をさらった。

大正二年、力を認められて東京大角力・浜風部屋に入門。序ノ口三十五枚目でスタートした。

大正五年十月一日、横綱西ノ海（二代目）一行が深川村に巡業。その中に、長門洋の姿があった。

観月橋の近くの川原に土俵を設けての興行であった。郷土出身力士の出場に村中がわいた。

翌二日、深川小学校（松岡唯介校長）の土俵開きがあり、横綱西ノ海の土俵入りが最高の花をそえた。

大正八年一月場所、長門洋は、彼の最高位、十両二枚目で出場。惜しくも二勝五敗の成績であった。

長門洋の当時の身長一七九㌢、体重九七㌔。得意の組み手は右四つ、豪快な〝やぐら〟の技がさえたという。化粧回しは、毛利家から贈られた。

このころから彼は、けいこ中に打った胸で体調をくずしていった。大正九年五月場所を最後に、同年九月急死。二十五歳の短い相撲人生であった。（良）

長門洋（久保田家提供）

◆（投稿）・長門市郷土文化研究会◆